

しまね学校図書館活用コンクール 取組の概要

学校名 隠岐の島町立西郷小学校

1 応募部門 ※ 応募する部門に○を付けてください。

- () 読書活動部門
(○) 学校図書館を活用した授業部門

2 実践のねらい

- ①計画的に学校図書館を活用することで、学習課題を解決するための情報活用能力を段階的に育み、学習のねらいを達成できる児童を育成する。
②ねらいを達成するための司書教諭、学校司書の授業への関わり方について明らかにする。

3 実践の概要（学校図書館とのかかわりがわかるように記すこと。）

（1）昨年度の課題の焦点化

学校図書館司書が本校に配置されてから3年目を迎える。昨年度までのところで、学校図書館で休憩時間を過ごす児童も増え、貸し出し冊数も伸び続けている。読書週間、読書リストの推奨、ブックトークなどを続けてきたことで本に親しむ習慣はついてきた。

しかし、昨年度末の段階で以下のような課題が浮かび上がった。

- ・計画的に授業で図書館を活用すること →(2)(3)へ
- ・司書教諭、学校司書が授業に関わること、また関わり方 →(4)へ
- ・使いやすい学校図書館であること →(5)へ

課題に沿って、今年度のねらいを前述したように設定し、取り組みを開始した。

（2）学校図書館運営年間計画・情報活用学習年間計画

計画的に授業で学校図書館を活用するために、まず各種年間計画を作成した。教科書が新しくなったことから、各学年の担任に教科書すべてに目を通してもらい、国語科・社会科・総合的な学習の時間を中心に学校図書館を活用した授業ができそうなもの、情報活用能力を養うことのできるものを年間計画に整理してもらった。また、その中から、各学年で重点的に学校図書館を活用することで更に成果が上がるであろう単元を設定してもらうことで、教員の意識を高め、計画的に学校図書館を活用した授業ができるようにねらった。

（3）学校図書館を活用した授業

年間計画ができたところで、次に授業の実践を積み重ねていくことにした。

①5年生総合的な学習の時間「野菜のことを調べよう」

幸運なことに、今年度本校で学校図書館活用教育指導力向上セミナーが開催され、「情報カード」の活用について学ぶ機会があった。セミナーで学んだことを生かし、3年生以上で調べ学習の際に情報カードを活用していくこととなり、その皮切りに5年生の総合的な学習の時間に単元を通して司書教諭、学校司書が関わった授業を展開することとなった。

テーマ設定、図書の調べ方、情報カードの活用の仕方（要約や箇条書き、参考文献など）、まとめ方と段階を追って司書教諭が関わった。また、学校司書は、テーマに関する図書を学校図書館や町立図書館（学校図書館活用教育用図書）で準備し、リストを作成した。

この授業を全教職員で見たことで、図書資料を活用することで児童が学びを確かなものになり、広がったりする場面を目の当たりにし、情報活用能力の育成のためには図書館活用が重要であることを再認識した。

②2年生国語科「どうぶつ園のじゅうい」

単元の最後で、科学絵本や読み物を読んで、初めて知ったことや紹介したいことを友だちに紹介する内容がある。こうした普段の授業の中でも、「科学絵本は学校図書館のどこにあるか」といったスキルを発達段階に合わせて習得していくのはとても重要なことである。2年生ではこの単元で身に付けたスキルをもとに、科学絵本を自分で探しに来る児童も現れた。

資料にもあるように、様々な形で学校図書館を活用する授業の指導案を作った。それをもとに担任、学校司書、司書教諭で打ち合わせをすること、より3人が連携して授業を行うことができるようになった。また、これらの授業の反省を記していくことでよりよいものが次年度へとつながっていくと考える。

③4年生社会科「古い道具と昔の暮らし」

道具を年代に合わせて調べ、移り変わりを調べる学習だった。ここでは、情報カードを使いやすいように改善し、道具によって3～5枚に書いて、それをもとに最後に模造紙に移り変わりをまとめた。

一人一人の作業ということで、効果的な資料を全員分そろえるのは難しく、資料の準備には工夫が必要だった。そこで、学校司書が事前に担任と打ち合わせをして、1人2～4冊の本から該当の道具の部分をコピーすることで対応することにした。それにより、情報量も多くなり、調べ学習を確かなものにすることができた。

④3年生国語科「食べ物のひみつを教えます」

資料から自分の調べたい食材について、おいしく食べる工夫と材料からできる食品を調べるという学習だった。学校司書が授業に合うと思われる資料をそろえても、その後、資料から自分の必要な情報を正確に読み取り、まとめるというところで個人差が出やすい。ここでは、児童が情報を整理しやすいワークシートを事前に協議し準備した。また、教師が実物投影機を活用し、ワークシートの書き方について例示するようにした。それにより、児童が情報を整理しやすくなり、意欲を持って取り組むようになってきた。

(4) 司書教諭、学校司書の関わり方

ねらいを達成するためには、ねらいを共有することが何よりも大切になる。本校では、まず、事前打ち合わせを実施する。その際、担任には指導書を提示してもらい、ねらいを共有する。そのねらいに即して、司書教諭は調べ方やワークシートの記入の仕方を例示したり、視覚的に分かるように掲示物を準備したり、実物投影機などを活用したりする。また、学校司書はねらいが達成できるような資料を準備する。その際、事前に担任に目を通してもらうようにし、適した資料か確認してもらう。事後には、資料が活用しやすかったかどうか再度担任に確認してもらう。それを資料リストに反映させることで、来年度以降の授業に生かせるようにしている。

(5) 使いやすい学校図書館を目指して

学校図書館を活用して調べ学習がしやすいように、夏休みに学校図書館の標示を再点検し、サインや分類表のキーワードなどを改善した。それにより、児童が調べる際に、分類表で検討をつける→書架に行く→めあての資料を見つけることが以前よりスムーズにできるようになった。

4 実践の成果

- ・情報活用年間計画を作成したことにより、学習内容や学習時期について担任・学校司書・司書教諭が共通意識を持つことができた。それをもとに、計画的に授業の打ち合わせもすることができた。また、担任の意識も高まった。
- ・普段の授業でも指導案を作って打ち合わせをすること、ねらいを共通理解し、ねらいにそってそれぞれが準備することができるようになったことが良かった。また、指導案に反省欄を作ったことで、来年度へ向けての改善点を考えることもできた。
- ・計画的に学校図書館を活用した授業が展開され、情報を活用する力も段階的についてきている。主体的に学習に取り組む様子が見られ、児童一人一人の学びが広がったり、深まったりした。